

宮古島市総合博物館収蔵資料目録

— 自然資料編 —

2012年

宮古島市総合博物館

目録刊行によせて

1979（昭和 54）年の博物館の前身である「平良市歴史民俗資料館」には開設の際、台風銀座と言われた厳しい自然条件の中で守り抜かれた貴重な文化財や民具等が収蔵されました。1989（平成元）年 11 月の「平良市総合博物館」としての開館にあたっては当時の専門的立場の方々からの自然史資料の寄贈を受け、さらに、2005（平成 17）年の市町村合併にともなって旧市町村から受け継がれてきた貴重な資料が収蔵されるなど、多くの歴史・民俗資料とともに約 2500 点の自然史資料が収蔵されています。

開館以来今日まで、当館は「宮古の自然と風土」をメインテーマに「歴史・民俗・自然科学・美術工芸」の 4 部門に関わる調査研究・資料収集・展示・保存・教育普及活動を展開してきましたが、その基礎となる多くの収蔵資料の整理とその目録作成は、開館以来の重要な課題でした。今回の目録作成に際し、資料の保存や保管方法についてもさることながら、資料の受入時の正確な記録と整理がいかに重要であるかを改めて痛感いたしました。中には情報が明確でない資料もありますが、これらをふくめて目録化することで、研究活動や学習の場で活用される新たな価値が生まれることと期待します。

宮古諸島は離島であることから、この島特有の自然環境でしか発見されていない生き物たちが生息しています。寄贈された自然史資料の中には、環境の悪化にともない収集（採集）が困難になっている資料などがあり、それらは今後、本市の貴重な資料になるかと思われます。

自然史資料目録を発行することで、資料を通して宮古の自然に対する理解を深め、さらに風土や歴史に対する新たなる発見や興味を深める機会にさせていただければと思います。

資料目録がこれからの博物館活動の糧になり、学習の場で活用され、研究活動においても役立つ情報を提供することができたら幸いです。

多くの方々のご協力をえて自然史資料が収蔵されましたことに心から感謝申し上げます。

尚、この自然資料編については、沖縄振興特別推進交付金事業（一括交付金）を活用して作成しています。

2013 年 3 月

宮古島市総合博物館
館長 下里典子

凡例

- ここに記載した自然史資料は、宮古島市総合博物館収蔵庫に保管されている（常設展示資料を含む）ものであるが、登録資料でも未同定のは省略した。

種の同定については、岡徹、川上勲、小濱継雄、砂川博秋の各氏に助言を受けた。

記載の順序は、地史・地質、植物、鳥類、昆虫類、両生・は虫類、ほ乳類、海洋・水生生物、甲殻類とした。

和名索引は五十音順に従った。

採集地については、宮古諸島のものは地名のみ（例「平良」「城辺」「ウイピャー」）、不詳のものには島名を、島外のものについては市町村名を記した。

- 地史・地質

岩石名等の名称については、原則として寄贈者（採集者）である安谷屋昭氏（元小学校校長）の同定に従った。

- 植物

ここに記載した植物はすべて乾燥標本である。

標本には押葉と種子があり、種子標本には英語の a seed (種子) の's'を資料番号に付した。和名・科名・学名は、『琉球植物目録 初島住彦・天野鉄夫著 沖縄生物学会（琉球大学生物学科教室内）1994年』『沖縄植物野外活用図鑑 全10巻 多和田真淳監修 池原直樹著 新星図書出版 1984年』『琉球植物誌 初島住彦著 沖縄生物教育研究会 1971年』を参考にした。

採集地は市町村名と字名を記入した。

- 昆虫類

ここに記載された標本はすべて乾燥標本である。

性別は、オスは♂、メスは♀で表した。

採集地は、市町村名と字名などを記した。

収蔵資料で未同定のは今回除外した。

和名・科名・学名は、『沖縄昆虫野外観察図鑑全7巻（改訂版）東清二編著者 沖縄出版 1996年』『学研生物図鑑 昆虫III 学習研究社 1990年』増補改訂 琉球列島産昆虫目録 東清二監修 沖縄生物学会 2002年』を参考にした。

- 鳥類

ここに記載した標本は剥製標本と骨格標本で、剥製には本剥製と仮剥製がある。

鳥類は、受入帳に情報を記入し冷凍庫に一時保存した後、資料として剥製にする。登録番号、登録年は、剥製資料として受け入れた年月日に基づく。

鳥類の和名・科名・学名は、『日本鳥類目録 改訂第6版 日本鳥学会 2000年』『宮古野鳥の会 25周年記念誌 宮古野鳥の会 2000年』を参考にした。

6. 両生・爬虫類

冷凍保存中の資料は除外した。

7. 哺乳類

冷凍保存中の資料は除外した。

8. 海洋・水生生物

貝類標本の和名・科名・学名は、『日本近海産貝類図鑑 奥谷喬司編著 東海大学出版会 2000年』を参考にした。

サンゴ標本の和名・科名・学名等は、『日本造礁サンゴ類 西平守孝／J.E.N.Veron 海遊舎 1995年』を参考にした。

9. 甲殻類

ここに記載された標本はすべて液浸標本である。和名・科名・学名については寄贈者である藤田喜久氏（琉球大学教育センター・非常勤講師 NPO 法人海の自然史研究所・代表理事）の同定に従った。

目 次

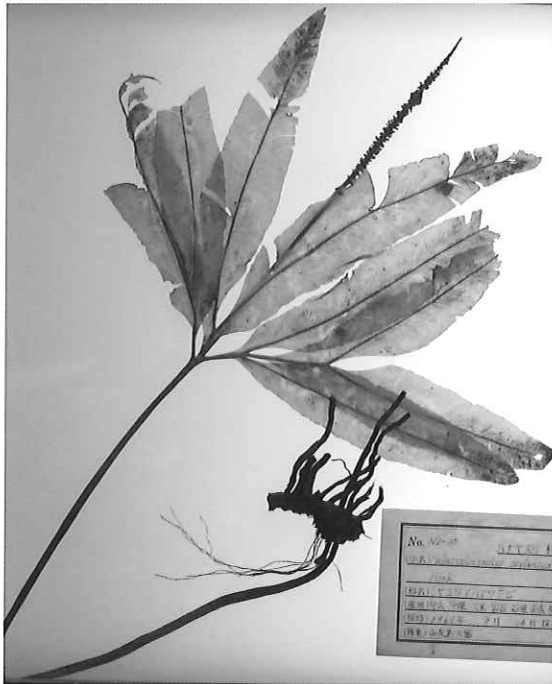
目録刊行によせて

凡例

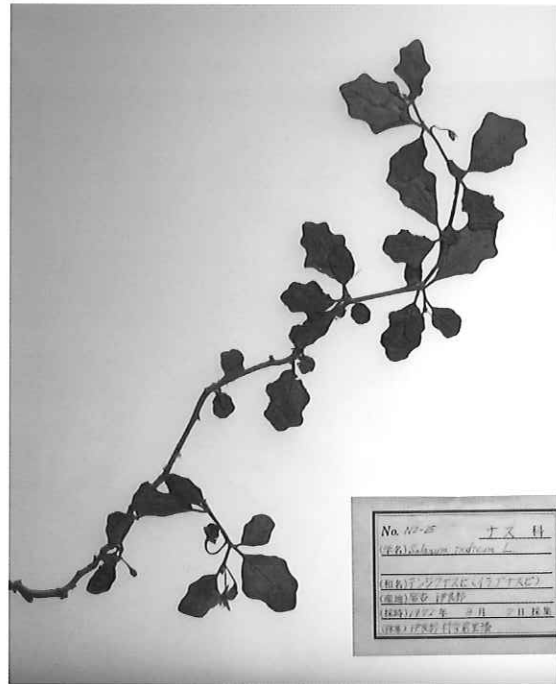
1. 図版 (I~XXVI) 主な収蔵資料

2. 収蔵資料目録

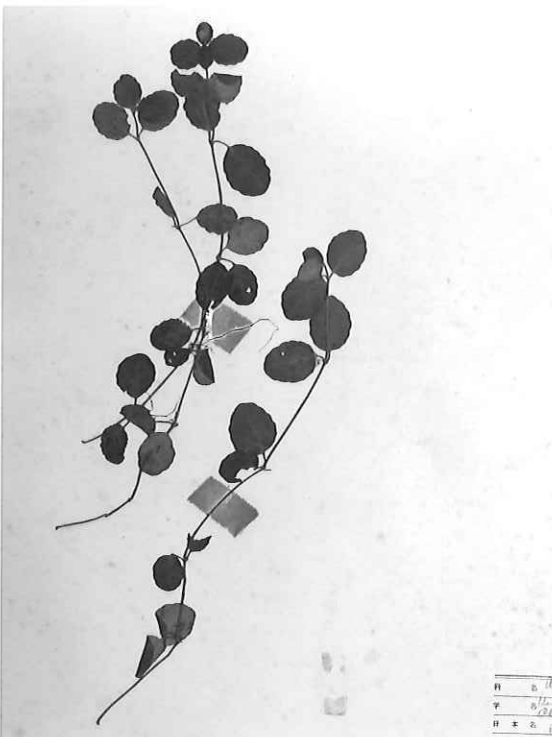
(1) 地史・地質	1
(2) 植物	5
(3) 鳥類	50
(4) 昆虫類	70
(5) 両生類	105
(6) 爬虫類	106
(7) 哺乳類	112
(8) 海洋・水生生物	113
(9) 甲殻類	153
和名索引	163



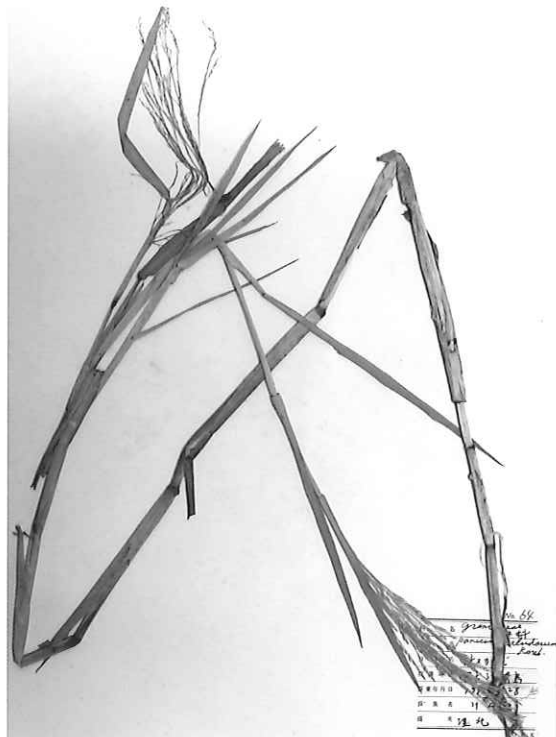
N2-30 ミヤコジマハナワラビ
絶滅危惧 I A 類・市指定天然記念物



N2-25 イラブナスビ
絶滅危惧 I A 類・市指定天然記念物



N2-66 ミヤコジマソウ
絶滅危惧 I A 類・市指定天然記念物

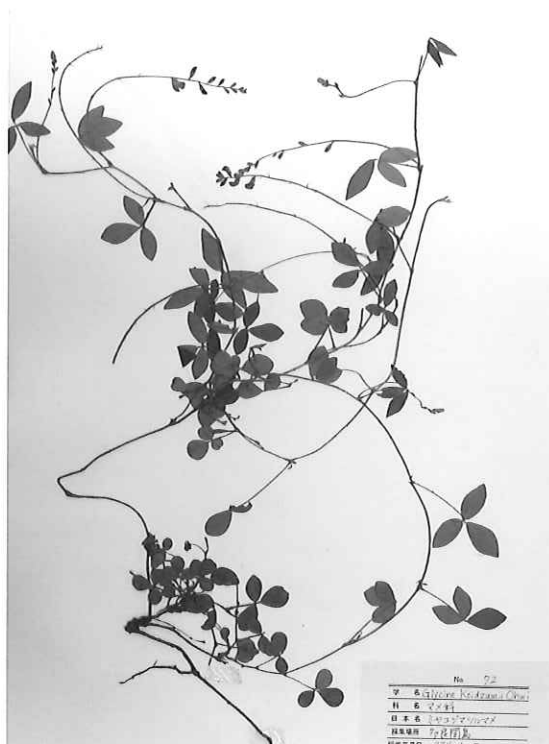


N2-64 オオヌカキビ
絶滅危惧 I A 類

植物



N2-89 テンノウメ 絶滅危惧ⅡA類



N2-61 ミヤコジマツルマメ 準絶滅危惧



N2-21 ヒルギダマシ



N2-134 ノブドウ



N2-209 タブノキ



N2-103 ハリツルマサキ 稀少種



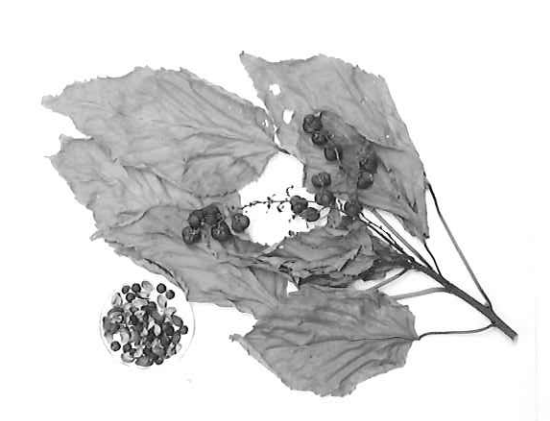
N2-12-055s タブノキ



N2-12-078s ハリツルマサキ



N2-12-316s イスノキ



N2-12-328s エノキフジ

植物



N2-12-185s コウシュンウマノズクサ
絶滅危惧Ⅱ類



N2-12-275s ヤエヤマヤシ
準絶滅危惧



N2-12-001s クロヨナ



N2-12-315s グンバイヒルガオ



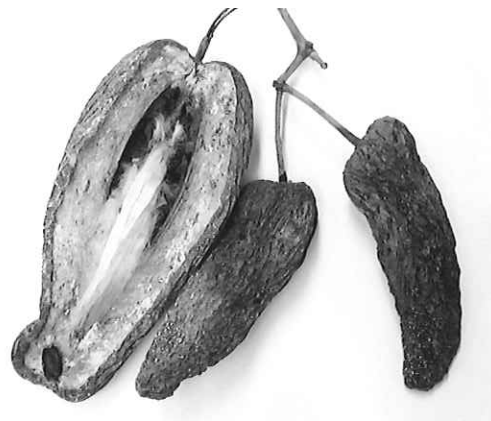
N2-12-301s ゴバンノアシ



N2-12-118s サキシマスオウノキ



N2-12-201s テッポウユリ



N2-12-351s ニンニクカズラ



N2-12-264s ノカンゾウ



N2-12-145s ノビル



N2-12-238s ハカマカズラ



N2-12-125s ヒマ

植物



N2-12-249s フクギ



N2-12-018s モンパノキ



N2-12-387s ヤエヤマハマナツメ



N2-12-318s ヤブツバキ



N2-12-256s ヤンバルアカメガシワ



N2-12-296s オオシンジュガヤ



N3-307 ハイイロペリカン（ペリカン科）

旧名ガランチョウ。ユーラシア産のペリカンで世界でも最大級の種である。BLI(旧国際鳥類保護世界会議)の世界鳥類リストで絶滅危惧種に指定されている。東ヨーロッパ～中央アジアで繁殖し冬にインドや中国に移動、日本には迷鳥としてごく希に渡来するにすぎない。2000年1月8日に伊良部島に飛来しているのが確認され、12日午前、衰弱しているところを発見され保護された。関係機関等の協力で専門獣医の元に運び込まれたが死亡。宮古諸島では初の確認。



N3-308 オオハクチョウ（幼鳥）

羽に薄い灰色が残る若鳥である。日本には冬鳥として海岸・湖沼などに渡来する。

2009年1月6日に池間島に飛来したが、餌不足で同年2月11日死亡。宮古諸島では初記録。

鳥類



N3-235 キンバト4 絶滅危惧ⅠB類
宮古島では分布を広げている



N3-95 ズグロミゾゴイ 絶滅危惧Ⅱ類



N3-236 オオクイナ 絶滅危惧Ⅱ類
宮古島・八重山諸島・沖縄島の固有種



N3-177 カラスバト 絶滅危惧Ⅱ類
国指定天然記念物



N3-303 アオツラカツオドリ 準絶滅危惧



N3-246 ミフウズラ 準絶滅危惧



N3-275 リュウキュウコノハズク 準絶滅危惧



N3-139 リュウキュウヨシゴイ 準絶滅危惧

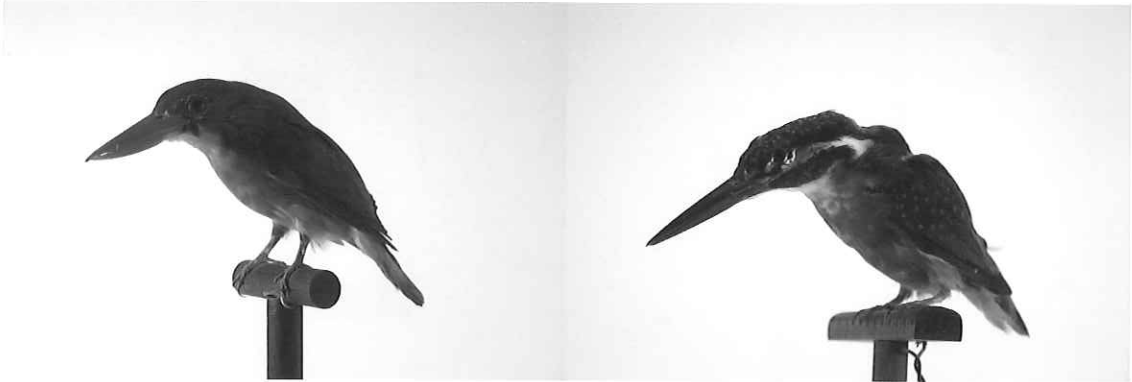


N3-91 ヤツガシラ 準絶滅危惧



N3-186 チュウサギ 準絶滅危惧

鳥類

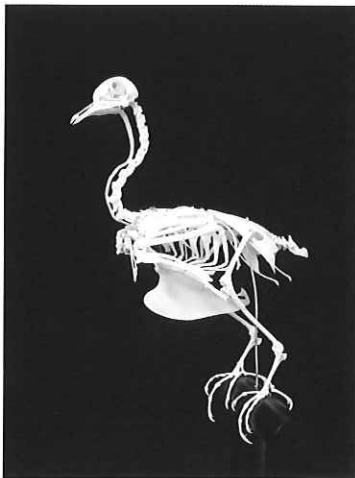


N3-19 リュウキュウアカショウビン
準絶滅危惧

N3-136 カワセミ 準絶滅危惧
個体数減少している



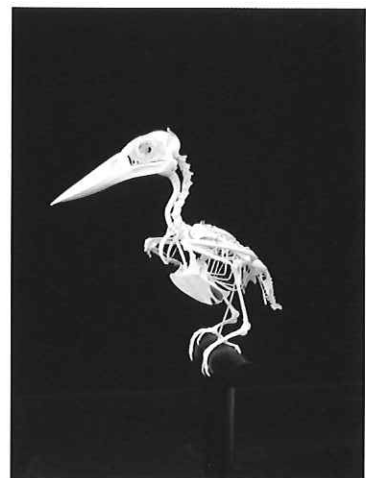
N3-72 クロアジアホウドリ



N3-264 カラスバト
絶滅危惧Ⅱ類



N3-263 キンバト
絶滅危惧ⅠB類



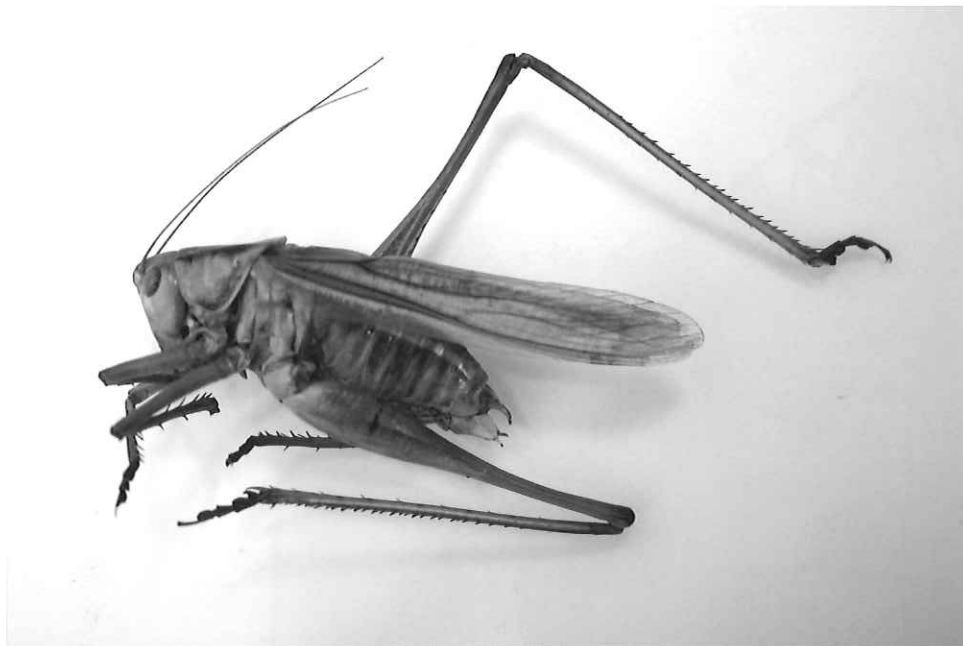
N3-265 アカショウビン



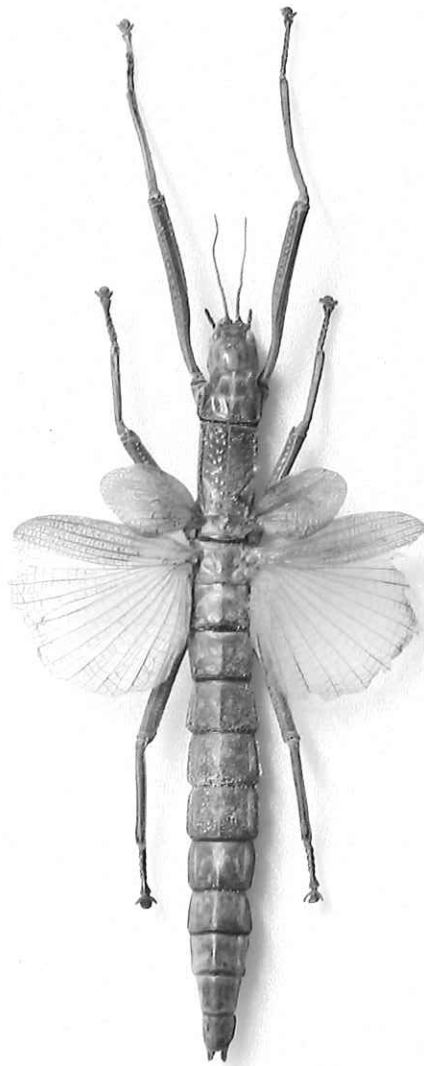
N4-81 クロアナバチ



N4-12-262 ミヤコマドボタル 準絶滅危惧



N4-95 リュウキュウキリギリス (オキナワキリギリス) 準絶滅危惧



N4-161 ヤエヤマツダナナフシ

海岸線近くのアダン群落にのみ生息する。昼間は植物の茎の隙間に潜んでいて、夜に活動を始めてアダンの葉を盛んに食べる。繁殖は雌が単独で卵を産む単為生殖によって行われる。1雌の平均産卵数は100個ほど。1989年に西表島での分布が確認されたが、現在まで雄の存在は未確認のままである。この標本は1998年8月に宮古島の城辺町で採集された。



N4-12-055 ナガサキアゲハ♀



N4-12-055 ナガサキアゲハ♀裏



N4-12-055 ナガサキアゲハ♂



N4-12-055 ナガサキアゲハ♂裏



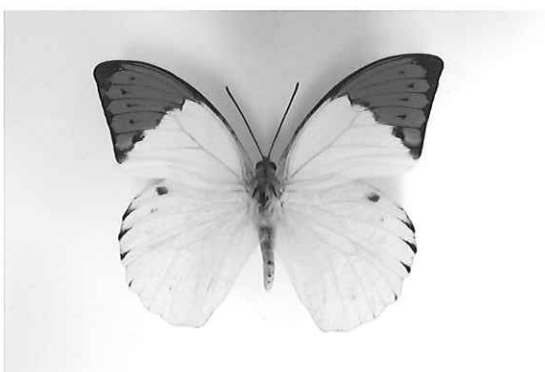
N4-12-055 ナガサキアゲハ有尾型♀



N4-12-109 クロアゲハ

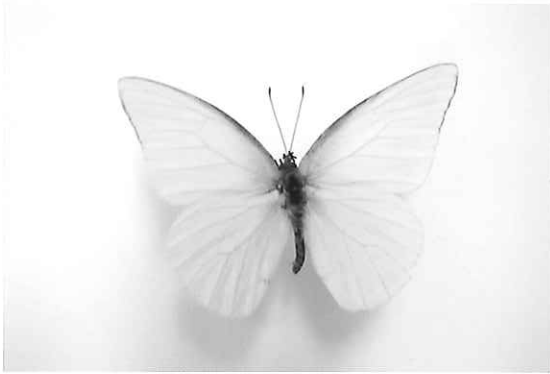


N4-12-108 ミカドアゲハ



N4-12-060 ツマベニチョウ♂

昆虫類



N4-12-099 カワカミシロチョウ



N4-12-099 カワカミシロチョウ



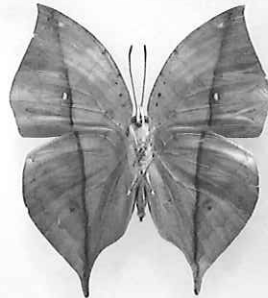
N4-12-067 ウスキシロチョウ銀紋型



N4-12-066 ウスキシロチョウ無紋型



N4-12-239 コノハチョウ



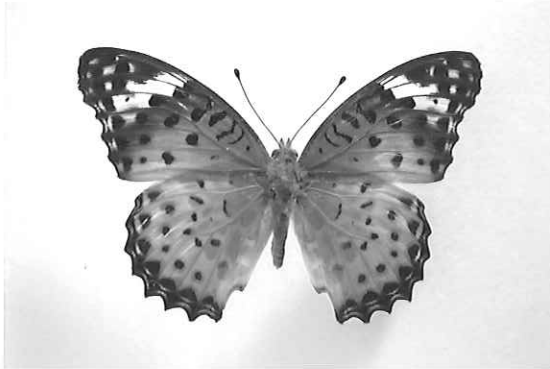
N4-12-239 コノハチョウ



N4-12-069 ルリタテハ♀



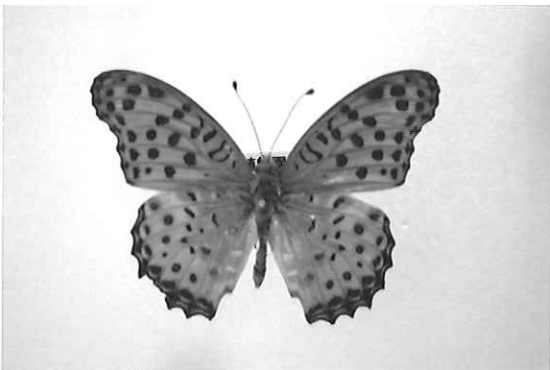
N4-12-069 ルリタテハ裏



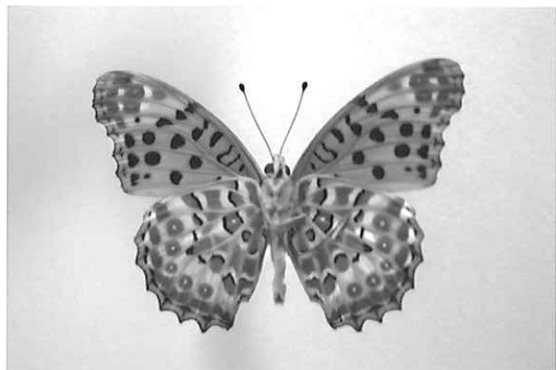
N4-12-068 ツマグロヒョウモン♀



N4-12-068 ツマグロヒョウモン♀裏



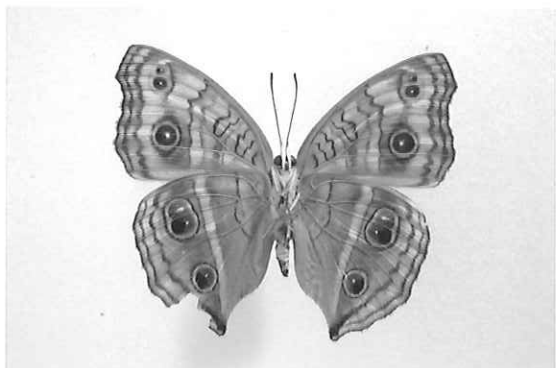
N4-12-068 ツマグロヒョウモン♂



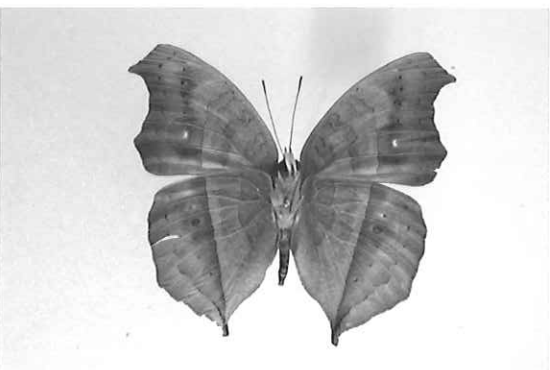
N4-12-068 ツマグロヒョウモン♂裏



N4-12-074 タテハモドキ夏型♂



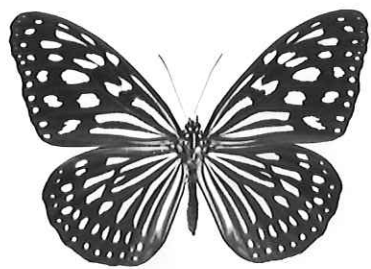
N4-12-074 タテハモドキ夏型裏



N4-12-074 タテハモドキ秋型裏



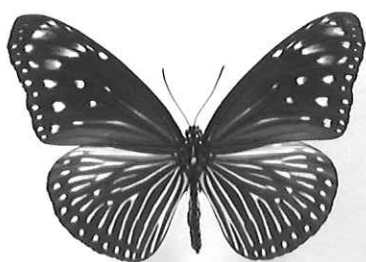
N4-12-244 イシガケチョウ



N4-12-079 リュウキュウアサギマダラ♀



N4-12-236 スジグロカバマダラ



N4-12-081 ツمامラサキマダラ♀



N4-12-081 ツمامラサキマダラ♂



N4-12-103 ガランピルリマダラ



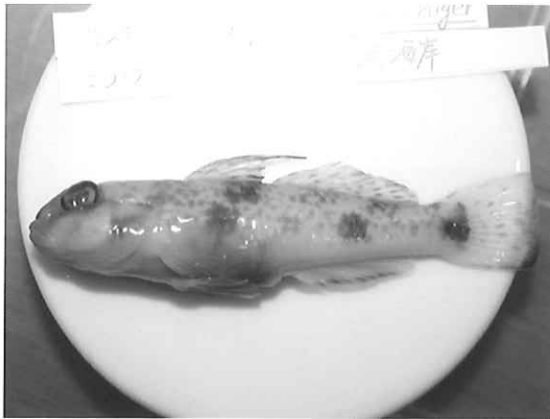
N4-12-179 イワカワシジミ



N4-12-104 クロマダラソテツシジミ寒冷型3



N4-12-175 ハマヤマトシジミ



N8_310 ツムギハゼ (大浦)



N8_315 カスミハゼ (川満)



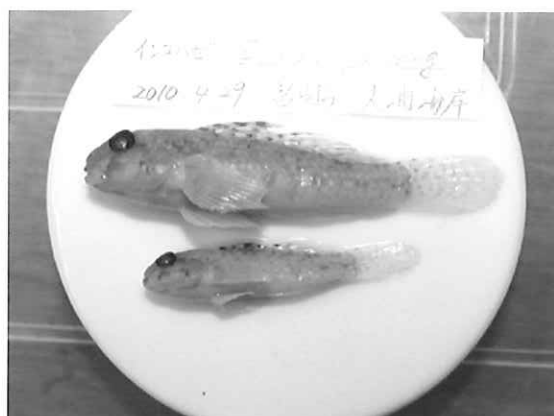
N8_316 カワヨウジ (大浦)



N8_324 チチブモドキ (川満)



N8_326 オキフェダイ (大浦)



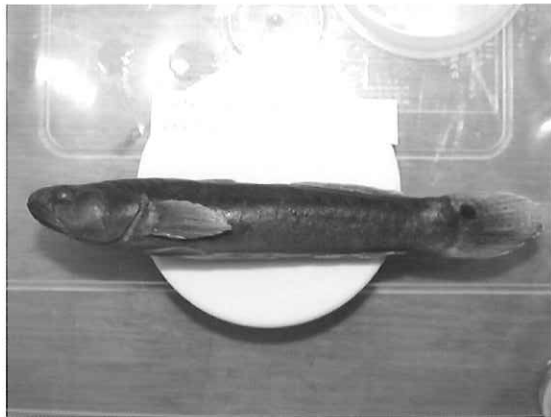
N8_327 インコハゼ (大浦)



N8_330 スナゴハゼ (大浦)



N8_332 ハスジマハゼ (大浦)



N8_338 ジャノメハゼ (島尻)



N8_339 カスミハゼ (島尻)



N8_340 クロサギ属 (川満)



N8_341 オキナワフグ (川満)



N8_342 オニカマス (川満)



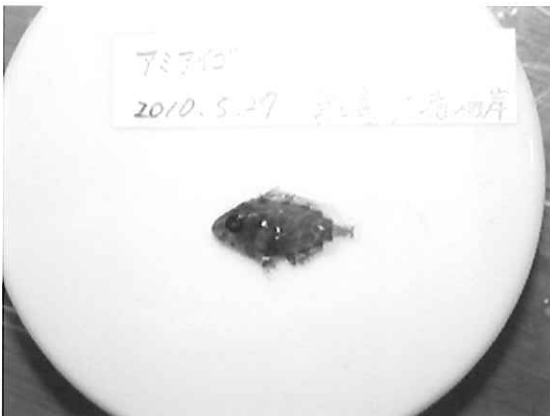
N8_343 クモギンポ (大浦)



N8_350 ハゼ科未記載種 (川満)



N8_351 サラサハゼ (友利)



N8_353 アミアイゴ (大浦)



N8_354 インコハゼ (川満)

甲殻類



N11-07-005 アシナガヌマエビ

N11-10-039 イウトビメンケイガニ

N11-07-015 ウリガーテナガエビ



N11-10-001 エビヤドリミミズ

N11-10-034 オオカクレイワガニ

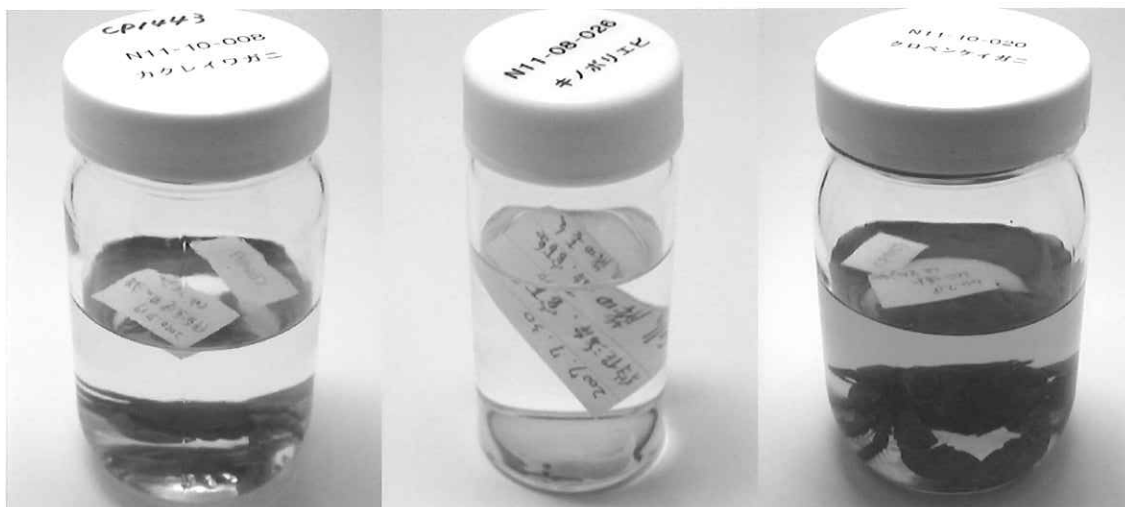
N11-10-018 オオテナガエビ



N11-10-019 オオヒライソガニ

N11-10-027 オカガニ

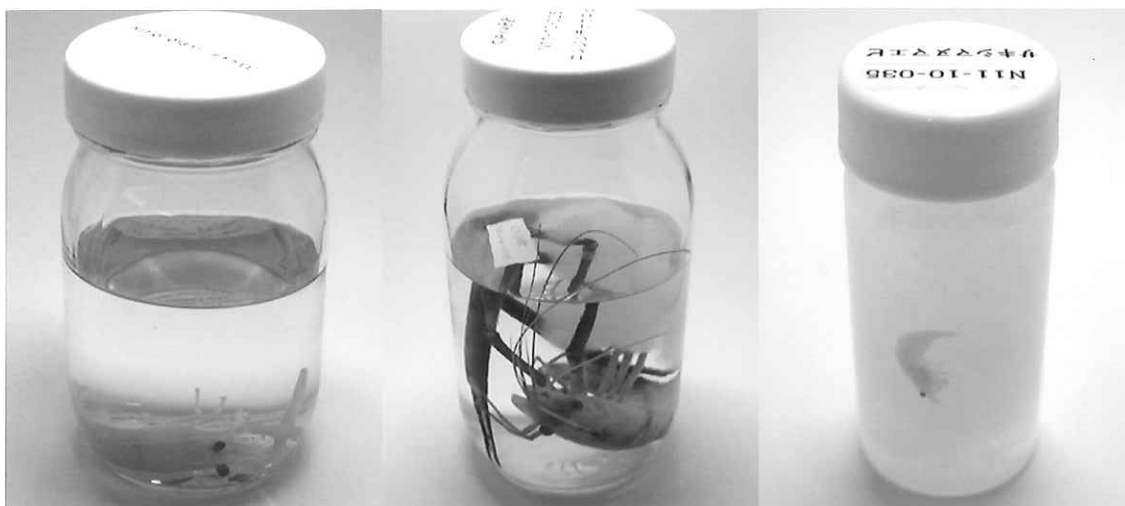
N11-07-001 オハグロテッポウエビ



N11-10-008 カクレイワガニ

N11-08-026 キノボリエビ

N11-10-020 クロベンケイガニ



N11-07-013 コツノテナガエビ

N11-10-025 コンジテンナガエビ

N11-10-035 サキシマヌマエビ



N11-07-009 ザラテナガエビ

N11-07-010 スベスベテナガエビ

N11-10-036 スマトライワベンケイガニ

甲殻類



N11-07-023 タイワンベンケイガニ

N11-07-004 チカヌマエビ

N11-07-016 チュラテナガエビ



N11-10-002 ツノナガヌマエビ

N11-10-009 ツノメガニ

N11-10-015 トゲナシヌマエビ



N11-10-017 ナンヨウスナガニ

N11-10-003 ニセモズクガニ

N11-10-031 ハワイベンケイガニ



N11-10-040 ヒメイワガニモドキ

N11-09-017 ヒメオカガニ

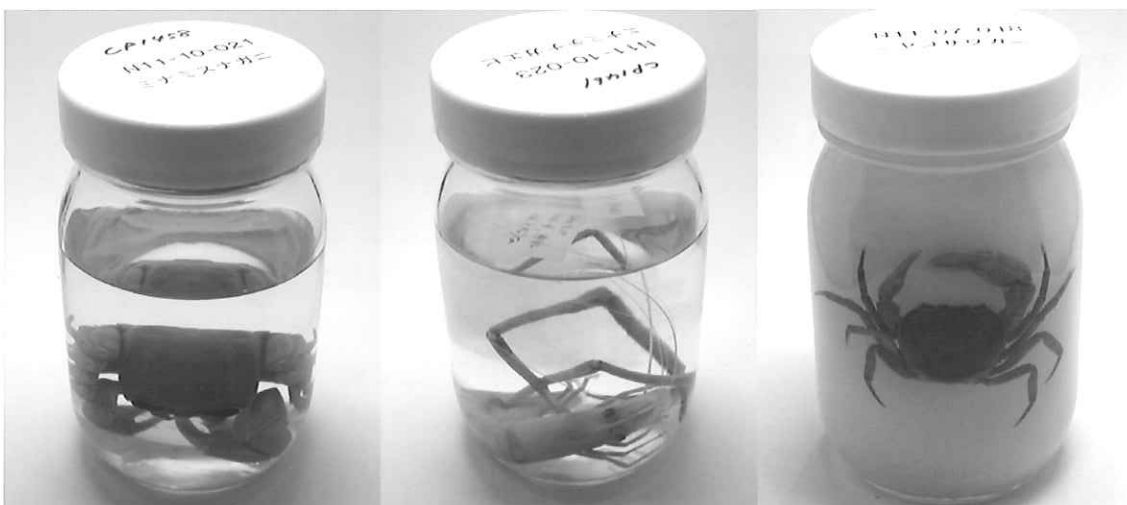
N11-09-012 ヘリトリオカガニ



N11-10-007 ミナミアカインソガニ

N11-10-013 ミナミイワガニ

N11-07-002 ミナミオニヌマエビ



N11-10-021 ミナミスナガニ

N11-10-023 ミナミテナガエビ

N11-07-018 ミヤコサワガニ

甲殻類



N11-09-023 ムラサキオカガニ



N11-10-024 モクズガニ



N11-10-030 ヤエヤマヒメオカガニ



N11-10-014 ヤシガニ



ヤシガニ

ヤシガニ保護条例

宮古島市では絶滅危惧Ⅱ類であるヤシガニを保護するために条例を制定している。

保護区域では周年捕獲禁止、保護区域外では6月1日から8月31日までの産卵・繁殖期は原則捕獲禁止、抱卵メスは日時を問わず捕獲禁止である。また甲長8cm未満の小型個体、甲長12cm以上の大型個体も捕獲禁止である。